

- 問1 古墳時代の日本（倭）が朝鮮半島や中国大陸の諸王朝と活発に交流していたことを示す証拠について、群馬県の綿貫観音山古墳などの出土品から読み取れる共通点として最も適切なものはどれですか。（2021年 群馬県公立入試 類似）
- 朝鮮半島の高句麗や百済、新羅、加耶などの地域と共通する、銅製水瓶や馬具などの文物が確認される点
 - 遣隋使が派遣されるまで大陸との交流は完全に途絶えており、仏教に関する文物のみが特例として見られる点
 - 江戸時代の鎖国政策の影響により、大陸由来の文物が一切見られず、日本独自の土器のみが発達している点
 - 縄文時代以来の伝統である大型の磨製石斧や、日本列島固有の黒曜石製品が大量に出土する点
- 問2 埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、当時のヤマト政権（ヤマト王権）の支配者の呼び名が刻まれています。この鉄剣の銘文に見られる、当時の最高権力者の称号として正しいものを選びなさい。（2016年 高知県公立入試 類似）
- 天皇
 - 関白
 - 皇帝
 - 大王
- 問3 埼玉県の稲荷山古墳から見つかった「ワカタケル大王」の銘文がある鉄剣と、熊本県の江田船山古墳から見つかった同様の銘文がある鉄刀は、5世紀後半の日本列島の政治状況についてどのようなことを物語っていますか。最も適切な説明を選んでください。（2016年 三重県公立入試 類似）
- 日本列島は各地の豪族によって完全に分割統治されており、中央集権的な組織は存在しなかったこと
 - 大陸との交易はすべて関東地方の豪族が独占しており、鉄器の製造技術を独占していたこと
 - ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと
 - 関東地方と九州地方の有力な豪族が連合し、近畿地方のヤマト政権と対立していたこと
- 問4 熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀と、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、いずれも「ワカタケル大王」の名が刻まれていました。この事実から推測される、5世紀ごろの大和政権の勢力範囲に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2014年 和歌山県公立入試 類似）
- 大和政権の勢力は、近畿地方とその周辺の非常に狭い範囲に限定されていた。
 - 大和政権の勢力は、東北地方から九州南部に至る日本列島のほぼ全域を支配していた。
 - 大和政権の勢力は、大陸の影響を強く受けていた九州地方のみに限定されていた。
 - 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。
- 問5 世界の歴史において、7世紀初頭にムハンマドがイスラム教を創始した時期、日本において行われていた政治体制や社会状況として正しいものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）
- 平城京が建設され、律令に基づいた中央集権的な国家体制が整備されていた。
 - 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かり、邪馬台国が30余りの国を従えていた。
 - 大王を中心として近畿地方の豪族で構成された大和政権による統治が行われていた。
 - 北九州の「倭の奴国の王」が、後漢の皇帝から金印を授かっていた。
- 問6 3世紀ごろ、倭の女王である卑弥呼が使いを送った中国の国と、当時その国と勢力を争っていた国の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2016年 和歌山県公立入試 類似）
- 魏 ―― 呉・蜀
 - 唐 ―― 吐蕃・新羅
 - 隋 ―― 陳・北周
 - 秦 ―― 楚・斉
- 問7 3世紀後半から4世紀にかけての日本列島の歴史において、大規模な古墳の築造が始まった時期の政治状況を説明した文として、最も適切なものはどれか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
- 朝鮮半島から移住した渡来人が、最新の鉄器技術を背景に単独の王朝を打ち立てた。
 - 『魏志』倭人伝に記されているように、九州地方を中心とした女王による統治が続いた。
 - 各地の小国が対等な立場で同盟を結び、銅鐸を共有する祭祀によって平和を保った。
 - 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。
- 問8 5世紀初めから約1世紀の間にわたって行われた、ヤマト王権の外交活動に関する記述として正しいものはどれですか。（2024年 山口県公立入試 類似）
- 小野妹子が使者として派遣され、中国の皇帝に対して対等な形式の国書を渡した
 - 中国の魏の歴史書に、女王が金印を授かり親魏倭王の称号を得た記録が残されている
 - 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている
 - 唐へ渡った留学生たちが、帰国後に大化の改新の政治改革を主導する役割を担った
- 問9 大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）
- 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度
 - 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度
 - 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術
 - 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み
- 問10 5世紀の日本各地における古墳の分布状況を見ると、近畿地方で誕生した特定の形式の古墳が、九州から東北地方までの広い範囲に築造されていることが分かります。この歴史的背景について説明した文として、最も適切なものはどれか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）
- 狩猟・採集の生活から、竪穴住居に住む定住生活へと変化した
 - 仏教の影響により、全国各地で国分寺が建立されるようになった
 - 墨田永年私財法の施行により、地方の有力者が荘園を形成した
 - 大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった
- 問11 5世紀後半の大和政権において、最高権力者が名乗った称号は何ですか。埼玉県の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣に、「獲加多支鹵」という人名に続けて刻まれている名称を答えなさい。（2019年 長崎県公立入試 類似）
- 天皇
 - 執権
 - 大王
 - 將軍
- 問12 古墳時代に見られる、上から見ると鍵穴のような形（一方が四角く、一方が丸い）をした古墳の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）
- 弥生時代に中国大陸から伝わった形式であり、主に北九州地方で多く見られる
 - 鎌倉時代に幕府の許可を得た武士のみが、自分の領地に築くことができた
 - 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である
 - 聖徳太子による冠位十二階の制定と同時に、身分を示す墓として推奨された
- 問13 5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2026年 群馬県公立入試 類似）
- 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している
 - 七支刀と呼ばれ、百済の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している
 - 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている
 - 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用方法を儀礼的に示している

答え合わせ・解説

問1	答え 1 朝鮮半島の高句麗や百済、新羅、加耶などの地域と共通する、銅製水瓶や馬具などの文物が確認される点	古墳時代の日本列島は、地理的に近い朝鮮半島の高句麗・百済・新羅・加耶、および中国の南朝や北朝と活発な交流を持っていました。その具体的な証拠として、群馬県の綿貫観音山古墳をはじめとする各地の古墳から、大陸や半島の影響を強く受けた「銅製水瓶」や「馬具」などの文物が共通して出土しており、当時の国際的なネットワークの広がりを示しています。
問2	答え 4 大王	古墳時代のヤマト政権において、最高権力者は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には「ワカタケル大王」の名が刻まれており、この称号が当時の支配者を表していたことを示しています。「天皇」という称号が公式に使われ始めたのは、7世紀後半の天武天皇・持統天皇の時代からであると考えられています。
問3	答え 3 ヤマト政権の政治的な影響力が、九州から関東地方に及ぶほど広範囲に拡大していたこと	遠く離れた埼玉県（稲荷山古墳）と熊本県（江田船山古墳）の両方から、同一の首長（ワカタケル大王）に仕えていたことを示す遺物が見つかったことは、当時のヤマト政権の権威や支配体制が、近畿地方を中心に九州から関東にまで広く浸透していたことを示しています。これは、日本列島における統一国家形成の過程を理解する上で非常に重要な事実です。
問4	答え 4 大和政権の勢力は、九州北部から関東地方南部におよぶ広い範囲に広がっていた。	九州（熊本県）と関東（埼玉県）という、当時の交通手段では非常に遠く離れた2つの地点から同じ大王の名を記した刀剣が出土したことは、大和政権の支配力がその両地域にまで及んでいたことを客観的に証明するものです。一方で、この時代の支配が東北地方にまで及んでいたことを示す証拠は見つかっていないため、範囲の特定には注意が必要です。
問5	答え 3 大王を中心として近畿地方の豪族で構成された大和政権による統治が行われていた。	7世紀初頭の日本は、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇を助けて政治を行っていた時期にあたり、政治組織としては大和政権の段階にあります。同時期の世界では中東でイスラム教が誕生しています。他の選択肢について、金印の授与は1世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼の活躍は3世紀、平城京への遷都は8世紀（710年）であり、それぞれの時期が異なります。
問6	答え 1 魏 —— 呉・蜀	卑弥呼が使いを送った相手は、中国大陸の北部に位置した「魏」という国です。当時の中国大陸は、北部の魏、南東部の呉、南西部の蜀の三つの勢力が争っており、この複雑な国際情勢の中で、邪馬台国は魏との外交関係を築くことで自国の立場を安定させようとししました。
問7	答え 4 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。	3世紀後半から4世紀ごろになると、近畿地方の有力な豪族たちが中心となり、各地の勢力を結びつけた政治的な連合体が成立しました。これが大和政権（ヤマト王権）であり、その成立と発展は、各地に共通の形式を持つ巨大な古墳が築かれるようになったことから裏付けられます。弥生時代の小国が乱立し、争いを繰り返していた段階から、より広範な地域を統括する仕組みへと移行した重要な時期といえます。
問8	答え 3 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている	5世紀、ヤマト王権は当時の中国の南朝（宋など）へ朝貢を行っていました。中国の歴史書には、讃・珍・済・興・武という5人の王が記録されており、彼らが軍事的な称号や政治的地位を求めていることが記されています。他の選択肢は、3世紀の邪馬台国、7世紀の遣隋使、あるいは7世紀以降の遣唐使に関する内容であり、時代背景が異なります。
問9	答え 3 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術	渡来人は専門的な技術を持った集団として、大和政権下で重用されました。彼らが伝えた須恵器は、それまでの弥生土器や古墳時代の土師器（はじき）とは異なり、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成された青灰色の硬い土器です。また、鉄製品の加工や農具の改善なども行われ、日本の農業や生活様式に劇的な変化を与えました。
問10	答え 4 大和政権の支配や政治的なつながりが各地に広がった	近畿地方の大王（後の天皇）を中心とする大和政権が、各地の豪族と政治的な同盟や支配関係を結んだことで、勢力の象徴である前方後円墳という同じ形式の古墳が共有されるようになりました。国分寺は8世紀の奈良時代、荘園の拡大は平安時代以降、竪穴住居は縄文・弥生時代からの住居形式であり、5世紀の古墳時代の動向を説明するものではありません。
問11	答え 3 大王	5世紀の大和政権の盟主は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇にあたとされる「獲加多支爾（ワカタケル）」の名とともにこの称号が刻まれており、当時の政治体制を示す貴重な史料となっています。天皇という称号が使われ始めるのは、さらに後の7世紀後半（飛鳥時代）になってからです。
問12	答え 3 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である	前方後円墳は3世紀後半から造られ始め、大和政権（ヤマト王権）の拡大とともに全国へ普及しました。大阪府にある大山古墳（伝・仁徳天皇陵）のように世界最大級の規模を持つものもあり、これは当時の王の権力の強大さを物語っています。
問13	答え 3 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている	古墳時代中期にあたる5世紀には、高句麗の南下による朝鮮半島の緊張状態が倭（日本）にも波及していました。古墳に副葬された武人などの人物埴輪は、当時の武具の構造を正確に伝えており、埋葬された豪族の軍事的な権威を誇示したり、死者の霊を守ったりする目的があったと考えられています。